

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

多元統合型偽・誤情報検出技術の開発・実証

成果報告書 簡易版

2026/3/19

技12_サン電子株式会社

多元統合型偽・誤情報検出技術の開発・実証

アプローチする課題・目指す姿

- 近年、偽・誤情報リスクが急拡大する中、従来の単一技術では誤検知や精度低下といった限界が生じている。そのため、複数の検知技術を統合し、総合的な信頼性判断を可能にする新たなアプローチが不可欠となっている。
- 複数の改ざん・偽造検知技術を統合したシステムを構築し、統合検知結果を活用した信頼性判断支援技術を確認する。さらに、これらを用いた信頼性判断支援サービスの社会実装に向けた基盤を構築することを目指す。

技術区分	コンテンツの真正性保証・信頼性判断支援技術	実施体制 (下線：技術開発主体)	サン電子株式会社、サイバーコマンド株式会社
対象とするモジュール種	画像、音声、動画		

技術開発の取組・成果

- 複数のツールが出力する異なる形式の判定結果を統合可能な形式に正規化し三段階判定を実装する統合判定ロジックを構築した。
- 統合ダッシュボードを開発し、評価・可視化・パラメータ最適化を一元的に行える環境を整備した。
- 統合ロジックにより判定精度が向上し、過検知や見逃しの低減を実現し、単独のツール製品では達成できない高精度・高信頼度の判定を実現した。
- 可視化UIと自動評価機能により、判定根拠の透明性が向上し、パラメータ調整や実務運用が効率化され、社会実装に耐える運用ロジックが確立した。

社会実装に係る取組・成果

- 市場ニーズの深掘りと社会実装モデルの策定を行った。
- 有識者・担当者ヒアリング（報道、プラットフォーム、タレントマネジメント、ブランド保護、行政機関、教育機関、ツール提供会社等）を実施し、実務における具体的なペインポイント（人件費、風評被害、ブランド毀損、法務コスト）を抽出した。
- ヒアリング対象者の視覚的な理解を促進し、課題やニーズを引き出す為、当初の計画にはなかったモックを作成した。
- モックを用いたヒアリングを実施した結果、根拠を示した判定支援の必要性を確認した。
- 市場ニーズを把握し、事業化における具体的な経済価値の特定、売上具体化に向けた具体性の高いビジネスモデルの構想を策定した。

技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望

- 統合判定においては、重み付けの調整により過検知低減や見逃し低減といった判定特性の切り替えが可能である一方、統合性能の最適化とユーザニーズをどの程度反映させるべきかについて、明確な判断基準の必要性を感じた。
- 悪意をもって編集・加工が施されたコンテンツについては、元の著作物や発信者の意図とは異なる印象を受け手に与える可能性が高く、社会的影響が大きい。このようなケースでは、コンテンツ自体が真正であっても、文脈の切り取りや意図的な演出によって誤解を招くおそれがあり、単純な真偽判定のみでは社会的リスクを十分に評価できないことが大きな課題であることを認識した。
- 統合結果の性能指標とユーザニーズ（過検知許容度、見逃し許容度）を結び付ける評価軸を整理し、ユースケース別に適切な統合方針を選択できる設計を検討する。既に前処理や多段階評価は実施しており、今後は、コンテキスト判別の高度化により、単なる真偽判定を超えた、実効性の高いリスク評価システムの構築を目指していく。

代表者コメント



サン電子株式会社
グローバルDI事業部
事業部長 須藤慎二

本プロジェクトでは、複数の検知技術を統合し三段階で判定する独自ロジックを確立。実証を通じ、精度の向上に加え「判定根拠の可視化」が実務に不可欠であると確認しました。今後は単なる真偽判定を超え、文脈や意図まで考慮した高度なリスク評価システムの構築を目指し、誰もが情報を安心して信じられる社会の実現に貢献してまいります。